

図書館だより 7月号

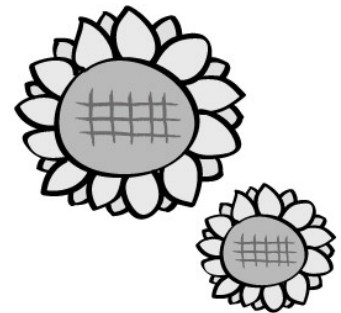


発行日 2017年7月24日
発行 戸塚高校図書委員会

本の紹介コーナー！！

図書館においてある本の中で図書委員がオススメする本を紹介します。
今月は夏に読みたくなる本です。

『向日葵の咲かない夏』 作：道尾秀介



「僕、蜘蛛になったんだ」

夏休みの前日、欠席したクラスメイトのS君にプリントを渡すように先生に頼まれたミチオ。S君の家につき、呼びかけた。しかし、返事がない。しかも家の中からは「きい、きい」という嫌な音がした。中に入ると僕の嫌な予感にあたってしまった。S君の首はロープに繋がっており、足は地についていなかった。首をつって死んでいたのだ。

学校に戻り、先生に伝えミチオはいったん家に帰される。その後ミチオにもたらされたのは『S君の死体なんて無かった』という知らせ。

それから一週間後ミチオの前にS君が姿を変えて現れた。そして冒頭の言葉を言ったのである。そしてまた言った。「自分は殺されたんだ」と。

そして僕、ミチオはS君の無念を晴らすため、事件を追い始めた。

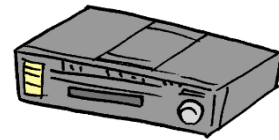
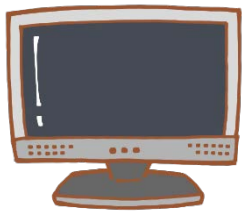
最後、真相を知ったとき、君は言葉を失うだろう。誰も考えもしなかった驚愕の事実。



『リング』 作：鈴木光司

1998年に映画化され、日本のホラーブームの火付け役ともなった大ヒット作の原作小説。ドラマ版などTV放送も多くされた作品でもある。

そのビデオを見たものは1週間以内に死ぬという呪いのビデオを題材として物語が進んでいくが、貞子は追いかけてこない。静かに迫りくる恐怖描写が鋭く光る一作。



『真夏の方程式』 作：東野圭吾

これは事故か、殺人か。湯川が気付いてしまった真相とは一。

夏休みを伯母一家経営の旅館緑岩荘で過ごすことになった少年・恭平。仕事で訪れた湯川も、その宿に宿泊することになった。翌朝、もう1人の宿泊客が死体で見つかった。その客は元刑事で、かつて玻璃ヶ浦に縁のある男を逮捕したことがあったという。はたして塚原は、何のために玻璃ヶ浦に来たのか。事件に遭遇した湯川は『ある人物の人生が捻じ曲げられること』を防ぐために、真相に挑んでいく。鍵を握るのは、16年前に塚原が担当した元ホステス殺人事件。そして、その裏には緑岩荘を営む川畑家が隠していたある重大な秘密があった。題名になっている方程式とは一体何のことなのか？



『サマーウォーズ』 作：細田守

今日、あらゆる生活の機能をコンピュータに任せ、その恩恵を受け便利さに味をしめ怠惰に暮らす我々。だが、それは時として牙を剥き猛威を振るう。いずれ訪れる報いの日を体験するのはほかでもない我々なのだ。ある真夏の日、ある大家族と世界を揺るがす人工知能兵器との全面戦争。人類の未来を託された無謀な戦いが教えてくれる人と人とのつながりの尊さ…今だからこそ、夏だからこそ、四の五の言わず読んでほしい。

物語が終わりを迎えた暁に、きっとあなたはスマホから顔を上げるはず。

コラム

花火の歴史

現在人々の娯楽として夏の風物詩となっている花火ですが、実は花火のルーツは古代中国の狼煙（のろし）とされ火薬技術の向上に伴い現在のようなきれいな花火になったのです。

日本での花火の歴史は古くいつから始まったのか、正確には分かっていませんが、今のところ1447年の5月5日に唐人によって伝えられたとされていて最古の記録とされています。

また、現在でもあるねずみ花火や今でいうロケット花火のもととなるようなものはすでにできていたとされています。

百年以上たった今でも愛され続けている花火！これから先も楽しんでいきたいですねw